調査研究終了報告書

研究分野：保健

調　査　研　究　名	レセプトデータを用いた福岡県内の高齢者における肺炎球菌感染症の実態調査
研究者名（所属） ※ ○印：研究代表者	○市原 祥子、西 巧、中島 淳一、高尾 佳子、吉田まり子、新谷 俊二、田中義人（企画情報管理課）
本庁関係部・課	保健医療介護部　がん感染症疾病対策課
調査研究期間	平成２８年度　－２９年度　（２年間）
調査研究種目	１．■行政研究　□課題研究 □共同研究（共同機関名：　　　） □受託研究（委託機関名：　　　） ２．■基礎研究　□応用研究　□開発研究 ３．□重点研究　□推奨研究　□ＩＳＯ推進研究
福岡県総合計画	大項目：誰もが元気で健康に暮らせること 中項目：生涯を通して健康で過ごせる社会をつくる 小項目：健康被害の防止
福岡県環境総合ビジョン（第三次福岡県環境総合基本計画）※環境関係のみ	柱　： テーマ：
キ　ー　ワ　ー　ド	①肺炎球菌肺炎　②診療報酬明細（レセプト）　③高齢者

研　究　の　概　要

１）調査研究の目的及び必要性

肺炎球菌は肺炎の主要原因の一つである。特に、高齢者における肺炎球菌肺炎の重症化予防は重要な課題であることから、平成26年度から成人用肺炎球菌ワクチンの定期接種が開始された。ワクチン定期接種化の効果を検証するためには、定期接種開始前後において、肺炎球菌肺炎による入院患者数の変化を解析することが必要である。しかし、現行のサーベイランスでは、肺炎球菌肺炎は対象疾病ではないため、患者数等の実態は不明である。そこで、本研究では、診療報酬明細（レセプト）のデータを用いて肺炎球菌肺炎の入院患者情報の解析し、実態を明らかにすることを目的とした。また、肺炎球菌ワクチンの接種状況についても解析を行った。

２）調査研究の概要

福岡県後期高齢者医療広域連合の加入者のうち、平成22年度から28年度までに肺炎球菌肺炎を主傷病として入院した75歳以上の患者（3,944人）のレセプトデータを用いて、年度別入院患者数の推移、年齢・性別、入院日数、医療費、併存疾病、ブロック別、二次医療圏別の入院患者数の比較を行った。また、福岡県における高齢者の肺炎球菌ワクチンの接種者数と接種対象年齢の人口データから接種率を推計した。

３）調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。）

○肺炎球菌肺炎を主傷病として入院した患者数の年度別推移を解析した結果、平成27年度に減少し、28年度に増加したことが明らかになった。人口に対する患者数の年度別の比率は、0.07～0.11％であった。
○肺炎球菌肺炎の入院患者に性差は特に見られず、年齢区分別では男女とも80歳代が多いことを明らかにした。
○肺炎球菌肺炎の入院患者の併存疾病を解析した結果、高血圧、肺疾患、うっ血性心不全の順に多かった（併存疾病の種類は、Charlson指数の疾病カテゴリーや高血圧及び肺炎以外の肺炎球菌感染症等、22種類について解析）。
○上述の併存疾病の有無によって総診療日数及び総医療費に差があるかを調べた結果、総診療日数は8種類の併存疾病、総医療費は9種類の疾病で明らかな差が見られた（有意水準95％）。
○地域ブロック別の入院患者数は福岡ブロックが最も多かった。
○患者住所地及び医療機関所在地を二次医療圏別に分け、患者がどの地域の医療機関に入院したかを解析した結果、患者住所地と同じ地域の医療機関に入院していることを明らかにした。
○福岡県の75歳以上における肺炎球菌ワクチン接種率を推計した。年齢別では、75歳の接種率が最も高かった。

４）県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

本研究から得られた結果は、高齢者における感染症対策（特に肺炎対策）に寄与できるものと考える。また、成人肺炎球菌ワクチンの事業評価の基礎資料として利用できる。

５）調査研究結果の独創性，新規性

レセプトデータを用いて高齢者における肺炎球菌肺炎の入院患者数、併存疾患と入院期間との関係等を解析した事例はこれまでになく、新規性がある。

６）成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）

本研究で明らかになった、肺炎球菌肺炎の入院患者数等の実態及びワクチン接種率の推計データは、感染症に関する行政施策に活用できる可能性がある。